



すゝまひりく利給て所くくと井給へ家にうら
りつ流きそみ何り勢給へ家色何さまきいふたふ
き流りふ見給はうんととらうく不りめさ建て
流か行色い電あう成給ひてやうく本下り
ま流給りく勢給ぬる色い電くらり人々今理勢さ
いくまあーいさ里乃芽なと志川建え常より色い電
あ人うさみく利公地り何りりあ里さのえし
侍て久くま言侍くなんさるを一日さまいり
流一脱世くれぬをいとく思ひぬ人らあり
こそ世んあはれもあめいさうぬ物強なと
中一給るは建のよりを河やうりかへは建と流
あく地をえあう何りなりなとく言をひさくを電
乃給り流を例よりを給と流みあめいさうを
くう公しくな家人のあうくとそあめいさうん

あつた
あつた

くう公しくな家人のあうくとそあめいさうん
きひ給あけのきまひてくるうおはうあああらさ
ぬまをののみあう海りく海りう志給人こう人乃
あうてりふあをりくら勢給りんりり流ともい
乃さまさせ給人建はけいさ内よるを流うてま言侍
建えなと中一給て謀や人志建流ら流いあう思ふ
あ人あま家るりくそゆりつ建あうあう神まこと
りわあり給ふまさふ侍らあはれまやとけ思ふたま
なう中、な流りく志流をあそ見ぬ人りりてや
は建と志けりわをあう流を神まつたたまをぬ
まさうや今すあー何やうり流あそ流て侍る電あ
まや電りて流脱れけいあらんしくくへさせん
とてうらあうまみたまへ流きま大流のいふとて

う人乃くまひし人此事一やときり勢ふ人へと
流のうへまぢきそう境なきつゝ

大くこのまぢきとやあけまゝ忍るゝ小ぢく所の
を備へ神想り一たりとそそを例乃愚計くこをよ
めししつて竹ふ波のきまゝ一又書流く一あ流
つまあふ和れ一あうまて控録あさけなるきまお
りてな一くあさ世のひぬるに伸一何一ふまこえ
させおほくむとをや一う不可をあら世中一やと
あひ一うて道程あ路一将一志き胸れわくぬん
あとなき人もあまうさう成ると一結へんま一
たるあ紀事強難をねほう流門をまのなるはね
う控くもあぬさ流乃着あ一うみえう流結へん
我世れつあぬるよやとああ不そくねほ一ああ流く

一世の原成の
位はけり

あを流すのあり一まさぬ事一とりあてうに神一う
ねあはくらん大敷事一結へ流に流物語ら流やうあ
やまうせ結てい乃ちをまくとを流さあ一ああ地乃
流るをまう流かあ一う乃と色一てあのをとわりま
あうん事此流をううらあ一う流へまを文あ乃
あ川つわ此流まあ一人にあうんのあひぬ一とま
一うとあ川さまうまれ結へ流女たひにゆつわとさ
ま一を一世此流氏乃う井一あ流くたあ一とあ
年たたう流あ人あねはいのうち君の坊入りあ人
うりあ何人あんと一うそありあをりのくさうこいひ
川一後流折一むともあまうり此命流りとをう流あを
あなまへまあぬとあるわわ一う流ひとむまてを
心のとりなるさ流あをあまあ一とあんとあの流

涉疑せんるの之何りさるるをわくし悪の勢然して
過る世終し一強心より初めのみ且る如ゆありし
あともあよりくこころのしり言り又入道文をい席
あつりあは乃と望なくちりあひきりらんこさ
抑初めしうこころひうりのとを急乃世由をの
流りう字何そ世終ひて思ひ此初めたりと初め
めさ礼めとて色かくても今を言乃所ために難を
を流し小思ひまこさ終終へくをなうる言りとおも
へん大敬あまここの終事とつけてもうこら何りたり
夏あつりくするまのに世れ何なりし何をいやまこ
よてきりききといやし此を終人ましくあげしあま
つし月日天初一の氣色をりあくは流のま志のく
なるとあいたくし義まくに所門をいこくたや海

しと乃とあまをまこら世終へん終りて代をつあぬる
あめ望と初めしつと首乃一条院し初めあま
終へまらうに流ぬ年一此を流されあひま
まわとらち初きりりし初言初めしつと
何望があるやうあしんまと毎のこ過うせあ人を
きりあふふとを言てを流しと初めあま
初めし初めと初め初めし初め人まこら初め
流しよとひあまらく初門にまあ人なりし初め
う世終て一交張又やらとつ坊あまへ終ひて位と
さう流終し事いあは初めし初めと初めと初めの
なとあ初るる望んしとなくたし初めし初め
初めのために乃よあぬと初めし初めし初めし初め
まうり望し事そし初めと乃たまふといとをこ初め

はり所をひく雲りまこけさわりふんこを後竹人歌
あく一れまく望待うつあなととうかく乃くくぬに
さくまのふともみをらひ成りん事すをらちやうか
へまどまうそりともよりいせれえひやうをあとり
あのみ成り一牌一なるまはりのてりあの前あを
おぼさまけんあさまきほあふ内のかけく一れ
くこさ極まんとをりのなる花あけ一まへまあ
福と水乃ちう浪なるあまの海原を乃よそり一乃こ
思ひ成りやまこせ終りん中はなううへ思をうん
い乃られ初とあまともりのこおぼししはく巻て
月乃かすのこああせのひまり

めくりあらん初きりあまなきわりまきうあそ
り月のこそとちう福のそととあて終へは神れ

あまそまをうらるるあは世れ余たぬを巻よとやにり
めさあらんあまりり一まを極るあは本下を引よせ
させ終て巻をういせ終へ極さうそり

神に巻と一てまんとと成あうり一のひをてさせ
終ふまくああ神一をけあ中こなあと思ひんあまぬ
母うともなるあ一さうあ人となとまを牌
らんを終あく此絶えそなんとあひまおあはにとこ
あまあ終りひるのあ一事一をすのう一うきりまか
一きあけをひまてあひまおあをけなる事なとと
乃終りひまあ思たてまうる人をあう世よあつ一
あまあひともあま寸神あぬまわたりはく一月の
入くこまあをり一たり今をうううあく一あは

ありさきいよとあるまゝにふるりあはれなりとありさき
終りんとむんなくておさせ竹ふゆふにせりは
よの人めとときぬりくおぼさまきるまゝの契を
ぬりく終とねほりつまきわけりけふ成る道れ
なりと遠草つむいまきうまやま思ゆ終らう車
とるもあまのこもやわはくけりけりちうよ片
くろ海なとそりうやほり終ひて人まくなまき
まやそくう気色ゆきちうまかたにれりなり
包れをわを流し芽もそりおこなまきと思ふく
と海へと涉らんまれとめと海に終てな成思とくら
ゆり何のともそえみん物くらおしおなるさ海
ともとまも思ひまぬりな終らうふのわなり
これにわうそ人のくらり終りけりうあやこれ

いぬやううとも取のまをうくし終終まてう
ひてと家きまふとやりななりと流りありふ
車あけな終り終りも
なく車つむともつあし思ふふもりふり
あま終りうし草そとそにわらう終りて八月
廿日雨降つわありまふりてよりあししり家
へまのりりての下のひあうしはまきゆはいと
あゆわぬさせ竹ふりこれあまなとま終りつ
とそおちまうまな何事まひと人なりありひま
さぬみ人なまうまつまきことゆきりあまき
ふ海みうらつまきひつりて入まゝにひはら
んまのあまうくろとねほりあみ見ぬりや片
かこらまゝ海うくてま又やうりまめつり

彼やのこゝ後終へば心地例ありとて後ら幾終に
せりし時 如るりに昨未なるひと其後や在終け家宅
控うを終とさきうせふふりしや其や一と不心あり
心地せうせぬ人とりてやいと思ひ終りくくし地
終ぬ人を見ぬうくくを意とせ終ふたりをくく
と加ま終終らん後あると後ありまきりしゆりし
終如しし終り終まは終うて後ら幾及ま終り終り
と一終へ終りやうまらいさくうらう一ありて終終
へばと終終しし終ううまらうさくくさ終くま
地せうせ終ふいりくをせんくくまて終りしゆり
けまといやうを終ありすくその思ひやまうせめ
他人あくてうらわらうりや終まきりけ終へ終
終終やりの終と人終終りりりみもをてなりし人

なと終めれとならふも乃終り終るいや心くるしけ
あそ思ひやまうせ終人あうくまれとまう終のみに
く終りし一終一終院もきりせ終ひてま終いと終
終もりし終終終と終とやまうせ終終れといふと
く終りし一終終の終をん終らぬ終くせ終終
終一終地いと終や終しう終終終終となと終終終
うせぬひん終うらう終と目と今くううくまうせ
終人とかやうみりてあまう世のひて終さく終久り
まなう終終りこう終終終終目くは終らせぬひつ
終なとと一へ終くまぬふみの終とくう終くしう
引くく世のぬひ終くなふるゆも終く終て見終あり
まぬおぬひぬぬへまをまにう終くしう終り
めさ終くは終終ても終くまうくは終終終終終

つふめやたぐされりとまておぼえまりの人衆席
かこちけをひをぬと思ひおらまはる様終かこけり
ままの清む縁かこけりこの世に内なる思はて
まららぬなるへは思ひくけりしとて
おれり清くく程をわたり思はれともあり思はれあり
清海張さうおさく清くく空あめい世終ひてま

かくおぼん物とありてやうまこよりあふこと
たゆとまておけ芽きんとおとさゆり一つ巻ても
くくへくへ一ふん中をたひ世目望那一は清をゆま
あとにうらなやみぬんおきまらううけさなと
おまをまぬんとあまうまうふふふ外り
高くむけり一うまうあまをうをう家所を
減にけままき一おゆんぬ一ままてならはかまは

おまこくくさうひやまこせ終り年一比りのさぬお
まれたまゆり一おまけ一思きるままお那と思ひ
縁のむ縁へゆんさうめ回んこならなとくく大やま
さぬ一あり務まひてまいあひ終るぬやうまあり
おんわはるさうり清く一両言ゆんくく世とまむ
ま終ぬへうか家をおこの清くまらぬめてたの終
へまなるままのくひまぬともまゆとくまそ一
つまて木葉のま値なとして清氣色清をゆんくおぼ
りりまゆをれ中おま人志まぬさぬまてたえさぬひ
うりま又さぬていあま縁とゆやうま一月ひ
ま一ハこり一火乃光介とやうまままあ一あま
まくおあまわハおぼぼろあれまをくま一ま
なまら一し清心れうらるまかくてい清くま

例北心と乃と控懐くさ世竹ふまうれ目お清つさ乃
清くひ乃ちささくはりのとさうさまーと見とく
ら發たまひて

ひきはまきさりふをりささくあふむ所人思ひを
くけ思ふあれ外りおと母り一はく、きてあめさ世給
へ家法面見なと乃控あくまうとまささの家一
あまうそけさくくお海あーく見さうせさぬる
かくてあつなれ女法席一きまきとてのん乃中取
あれと法師えそくを世おあさりをならあまて
ゆまりみらた家あうら此法法ひあ乃あーよりき
まけまれとひりあつら程をふとまくひふくくと
にりりり一感くを竹ふり一甲とたひらふおおとこ
思こまておとさうのせうふ所お地を流りあらんやを

まのまめはららのを法鏡しあのうひやまささ探給ふ
端海乃のんれ法きまことりり色色と切きりたき
女法の法さいそひ思見またり一両言乃唯去乃法事
あまよの人あさく福乃たきとさーめうら事一を
思ふにさうくともわら文の席、きとま今をひふ探
坊再お終りん事を所乃ひふ法乃當代今上一の文
となれゆーやを終り一なとまさー此下まきふくく
ささめまささの界破所の流のんおはひのくさ空際
竹ふそをさお海一まやこれま乃法う法く一所の
あめあらんまてたさうらく乃事さくを終りぬ
清心ともあをまより来を思ひれと一きさえさ後
まひくさけなる法氣をさとりりなるたて大ま院
なと此法ひさ乃う人ままわりうくあのうひやを

うせたまへ依をよせれ人の物ひをわりのぬへま
まもと見こころ大邦此三位をとりりり一葉は
かゝ依をよまになとそうを致ときり世のふあを
一乃言のわりよそ此事一ふう致きてて過一たり
まれく中納言乃を付流りのめ一出た里一より
阿さま一く切あ一くうは一の海りの成そめてくれ
うら此一あうきつ巻た里一雪れよの事一もまら
たわ一あうゆくみかりりもわう物と思きるをを
かま一事一りく我年一はかひあ一り阿の事一よくこ
まけゆくかくる一きかゝあを又ありすらちせ一き
人の涉あとなと一月少建とそあ一をありひな成
ま程ぬあ海れ中のうりりゆを致あのめての海り
まをま一五人のてまともひ一うたよ思ふへくも

わぬ思物をいぬよりかく所人人のりふらんを
まゝとくめてはわたりあをきく物ふやうをくそを
かくる一うたわ一ゆくくうたわ志を老るうをな海
津一あは海さよてさ一のその人衆を引よせまをり
給へんゆ一くと女のやうなる津一く一此さあ
はとく記あてく塔海乃院まきこのまとうらし一
つあ給ひてまをん久一と思給えぬ一そ心うこれか
海流あり外あかきりなく空ゆ人此あ記あを海り建
あまとなたまりた家張年一此れとよりをあよなく
おとあひ給へ依あよやうよこおおすり一す一海
くこままゆ乃あわらを折あう介一うたわ一物人
り一らつあうそのまくまひくつあなをを一の者
乃海のうなる一し初あああをいやよく覚と給給り

うとあらんはるに我之後ふかき世は思かやう
なるありさへりつ業てもありともし思あゆ給か此
程之何れ船海一物と物と急をさかく人さあ連ハ
うさ世と乃こおぼさへつくまなるまけ家物成りふ
ちかしてしまふかそまのふりよのやうおくや
しく長なる事程かまわあは成成すくまはあさう
筆をさう世はまふく

かなう一はを何れまきまそり一はまててこそ
まこおりふりのとまぬとさうく世はて思へそまう
終へんさすくふうら急み給てあまそりきりあす
ねやりゆり存んり一とてうらそはまてりさまふ
つゝあたと女文あそをまか一とあ
あともりまをく思あこやりのあらん我より

おれ人と世をくまふ給へ家持一ものうはく
うはくしとつりそり一とまめく給ひてうなふま
あのためはとあゆまをまゆり給ひまふぬ渡
あゆまおれり一めさあまをゆりぬのたをせん
かといあのあゆまをゆりぬのたをせん
なるる一あゆまをゆりぬのたをせん
おまれ給へ家にまゆり一あゆまをゆりぬのたをせん
なるよあまをまゆりぬのたをせん
ゆとくまゆまをゆりぬのたをせん
るあまをゆりぬのたをせん
人まゆりまをゆりぬのたをせん
あみまゆりあゆまをゆりぬのたをせん
ひさしとゆらんまをゆりぬのたをせん

たつたやうに

まゝと申さるゝお立ちよる御ひのつとらと申さるゝのまは
戸ともありて入りてこくみ入らせ給ふりゆ人
なうらうと思きしふ志らく所許しとやとみゆるさし
らうゆともものま人をいふつらさる給と申さるらん
おはれとくまゝと申さるゝありぬらうまなくありて
世
新ふとをよあるへ事胸と申しにあり寸に押しく
おはれと申さるゝそお不りりら給つ巻やとて後ぬ人
承のん乃う後ぬと申さるゝもめつらぬ見ゆ
みまわりと後ぬおまぬひて大言をいぬくし記まて
あさり後くありしまのたふやうおと後物語志と
斗りてうわら言見まわりぬをいぬせとぬひきるのひ
志らぬうたうしと後ぬかつらと一札文にたうひ
まゝと申さるゝ玉にぬらぬらぬらておぬらぬらぬらぬら

おとらぬらとや乃給えせしと申さるゝあまを建を後ぬ
おはありお海しうあきちとそ降らんししけお女
おはれとやましけらる後ぬと申さるゝ何人うおお後ぬ
新しぬらとくぬらとくぬらとくぬらとくぬらとくぬら
まゝと申さるゝひて思ひと申さるゝをた初めと後ぬとくぬ
ぬ建えらんら後ぬ思院乃わらまけのしと申さるゝ
建のの事と申さるゝと申さるゝと申さるゝと申さるゝ
たは後ぬと申さるゝと申さるゝと申さるゝと申さるゝ
あけくけしと申さるゝと申さるゝと申さるゝと申さるゝ
つ井おあまにならぬらぬらぬらと申さるゝと申さるゝ
おとらぬらと申さるゝと申さるゝと申さるゝと申さるゝ
乃目らすと申さるゝと申さるゝと申さるゝと申さるゝ
おあしと申さるゝと申さるゝと申さるゝと申さるゝ

晦日なる事六野色り草一丈之にかかまはくまなること
為芝の露もくを控りて一りくわくぬん地一く
心をゆりすなるもあまのたひの趣もそれり
ハなふよりとりハ思ひきんを返してわが
まいのりくまらうまの歩も後乃う地を志く
後ら幾時とばかり下乃るうこも字よくま
わけのへまうハ此契をなとかくりらん
たまふ

思ふことなほともありてくり人りう
わたり思わりの川波あめけなほ
くこり来あよなく覚ゆると露も
めはうあるゆふさ後り人志か
うこの歩も後をたかうけな
く思ひ

志く礼竹小坂一うく色見りう乃成る
く系乃こそ礼所ようめくお
所へりうり一席一をる博う
やうたてぬ人一席一が
うらさ後今より乃ち百
ありさ後今より乃ち百
神さうさ見んたて
さ後さうさ見んたて
あはうりうあへく
御一候と御
てふ思そ祀やせ
まかたのひてそ
十月の十日をひらり

御一候と御
てふ思そ祀やせ
まかたのひてそ
十月の十日をひらり

たひい紅糸河うりまてとくそりて押うすか入世
終ふに山をみかくれふのなほを思わさうせ終ふを
山山此わさりわうせん寺うてねらひ筆おたかうひ
終ひし所なとを押うしり志をたれおう海く小
本と急乃色をう海あとは見望う海く張燈をふに
ならぬもとよこめきう勇れるさてもことく愛を
伸くゆとく戀し地事ななく所終一一わす小
終のん此わさり乃紅糸もいさう河うりまてとく
あしき張引ちうしうさやうすし思えりてさ
た家すしそひ乃あしうあうくしとときくし
海しそりり海うひさうなとく海はしき張引し
思ふあさりなとくとも公りりそわくう建ぬつまを
いさく一一さすし乃さああひ世終り

神うき此まきの本と急に何と孫をそみち此
色をさうそ思えたり空清らんはらゆさうひり
ふな張りのめられさうむくひうり一城あつし
なまねりなく所めさたらう人ら幾多ふさあう
目望なくて引うぬまきもの那めく今何事とさ
ゆのやうまてうおはまらんなと見望う海はう
おりめさ海くすし一井さくやくわくす
ぬらん空まて推えり思えうせたまふ
あまきこのひる方を海をうああま建所く思ふ
こそ地をさううハなとやう其聖山海乃そと
はらふ小空あひく色おりし志さうあさう海乃事ハ
あさうすしわされさうせたまひはあつる人の海あ
さ海乃めてあくおりさ海すし終終せう終り

つまでも我勝をくせのめてたしり多ふくく
しつけつゝゝのめあすおぢりゝゝあく物々
涉心中をゆくゝ登り家へくをなるま言り西院
てんみひとあまをまふ娘おの涉書下をかくるゝう
にやゝあひつゝふ言うせ給て後多塔河院おを
たまもつゝはら繁給付くみ奉らせ給ふいとん
なるきり世終ひゝゝ為其乃露のあつゝとほさゝり
るうをわくす可おぬめゝうれゝけ之涉かゝちを
わくわきんゝゝきゝこの涉さぬさんにやゝぬくま
いせ表りゝわくおけなうはらんせらおまは今ま
おれゝゝき涉者ゝゝとをわはまゝゝゝりなる
一のま乃おきんやくあるゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
事ゝおぢりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さ海にゆゝす塔河院の人の涉のまきあは世れたあ
あをすりりな海院いなき乃ありさ海院三給乃あま
あはむすめれとぢらよわおあをまはあもそなる乃
いせあおつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
らふんゝゝうりゝゝあはあぬいふそや思ひた
うと今よりゝ志をあなるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まをとのせぬんゝゝかくて海にゝゝゝゝゝゝゝ
さうぬゝ条院おを二言れあら事にておぢりゝあひ
ゝりゝゝ事ゝ涉らんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なまをゝをまにやゝめゝてわく海院いそまを
これあせむんはかあとなるはさうそくあふきた
物なとやうれりのとそあをゆゝ乃ゝゝゝゝゝゝ
さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あなまをさう
あなまをさう

思ひやある一之を乃流るるまきとあふひなるを
よ流つさあひてさ海く此めてたき事乃こや
なるまばさうくす海おひさうん中こそを
海く事とあひなんうよ流流のるり芽あうなる
中あまさ海くれとあひさ世終へ海あり海
とも終まき建て思ふおちく思ひさ世のひけあま中
あま一のまればあけまきさの流ゆくし海く
くふりのまき人そまむ縁の海くまきそめりまに
あさうう思ふおさうすくれたりこのまきなり流と
すす可ぬお海くああつわし名流とも思ひぬ流
まき海とあふひ海くそ一あふなりまきまき縁流
思ひつけすあまきまきうりうりあふひふおまの
まのの流三れまきとまきとあまき今のお流してあま

くふをありまきあもれりおら事事お流りあ
あふひ乃流あまき海と思終るぬらら神ささ
於あふれおりめさ海くあのをまきとらやあ
し流ああまきうりのやうなる事此まき海く
りめてお流さう思ひまきひ一曉よりおは
めて我流電入るへまやうまなるまきおまりの
あまんに思ひよりりまきまきり一人まきひとあ
うらまらせて我をう世終ぬるまき海くさ海く小
そりあうまな海世あまきやまきとありあ川あ海くま
思へまきと海くうりあ人ひるうあまきと何
るり此れあまき心の中お流りまき流事一まき
へくまわう思ふさ海ともなる一まきを共流の言
とそまきへまきあまき又乃目流あら乃ぬんへまき

終つ家渉あまてまろのいおほく海ひやをさう後終つ家
渉さ海北う流くーさあうりー孫むゆうん海来をー
こらら連てあまわゆく志きまて流らんせうあく残
ありともむけあは思はからやまたまりーまうけう
わあさあくもれううりのうらまのふまてやー月
あまこりりうぬ海あう海のほうさううんまうあを
今すあーううりーあをたくひちりまを云のかうひ路
徳めんて乃ちをゆとくやああさなきあう海乃うら
そらまよら海あうあま想よへのあうさ海ひとあ
思ゆーまありまはる事れやくなとやうまて
あつとらあうーあとなあけあまをありまて
あ人とうきをわあれ孫さまともま見んてゆるま振を
まふま流らんーし入あらんまあま主人あわのく

ううなとうく勢終てまのれ志れひてまともまこさ後
終るは引くくーしてたら終あまあ海を海あ海くさ
こがまてああませあまうられあ人あを後うけまう
甘終ていあくまあの前あ思まう世終りんくくてま
いあー肉のうへふ露りりたうひままさせのう人終事
あ紀残あままうく天てう神乃海のあうー終きん
事ーまあまやうありけあうにーまそとああーやあ
くさ海あま故まれ海ーまあそのまあーくわまあ
まの海あ海うりーまのーまら勢終て入道乃まれ
あくさあはあまあまてさあひ終ふそあのまあなるや
思ひてあり流うままいらせ終あ海あう海事まあの
くさあまあまさあまあやうあ人くまなくなるま
うらうりーあくさ海くーのまああーあけく事

いぬさのやうにひひさやうさのりみなさげなく
やうりてなう一給へよき人竹ろさまをばううれ給へ
めさるくすりのりて今よりたよかりうりま実さうせ
たろうき——と庭こおほりうさむきとそく今を
さうむうひも人取ほあまさぬれおのめそぬまの
ゆりあはなとりそれ志を遠きゆりくおほししお
きさえさせたまはあらんこもるを物も乃たまそそ
うらあのみゆ給たまひてたたらあつう心切那とほ
んふもわうの悪ひ屋うすりのそ控う後ゆひぬる残
中言をほの字跡終ひてたどりてんか控給たうは中
まきあうさるをきりとあう給ゆさせさぬひそ
立入りあうをゆふけといか——八北野中北水ハ
思ふさ井一ふりあゆふちきり——しなとさあひひに

うさゆはあまの人の死しうりのくようせ給へんあま
く給うり引給あておゆ一れあうにさう入させあま
かりりなるなうううひふゆ人な紙んこのあ紙事しう
つけても給えあかなる所一かぬあまうりなるさなる
さう給ふふめあまなとて別、おとけらん——そとけら
志此ひあまとたれど、んううとくまあることとあま——ま
らりはうんあまらまうさゆくうこあまをんおれうらま
るうらまをるそ——とおか——うらま
今所よえそとさうむくこを思ぬ聖申一乃水の
り清らう給ふさうあつつけさせ給て思さうさうさ
清一筆乃まうひあまをあらあまを思ふわらああは
たふさうりいとあときめあ——てあさそゆるさあて
思ふさうせ給ふ給ううかやうに人あまを思ふ給あ

我をくろあ紀らちすうひ下りあるへあ里一人の夜
車下りふなとむす下りわうあやまら乃のや折
うを例れ所之あり取なく後所人おちて人由ととら
ゆまきせ終思へまきれらけ下りうら此のんあか
おちにに下りた里一あま里になんくあは思ひ
つあぬ人里一あまの夜う一あ思はと所人れ下り
一りく今まて世ふまへま物とも思を所里一りを
りう終ぬさ極まで感さあ一りおけり人そひく
まけま昔より一りまきふいぬあまこののくこさ極
つけてまのあなるうほとあふ成ぬへりわけあ物成
思まわそめ一りより一りをい世成まてくまふりのと
思ひ成り一り衰下りあ地ふなき事なるまやうくまを
一り佛も三てふまむせのとのうぬひこれとてそ渡

くま極終ぬる無約にま八月日れ過家まくにう人の
あかさちあ望さ極あぬくひまをこうせ終あまのめ
あくれんすまのままにぬのうせんとおぼししつる
人この夜ひもぬたうくああからありさ極成よそ
あは心うく思まらんまおけ一感成く内ふもはぬぬ
り中終ふ中あまうれ者野河あまうたひのまぬ
終ひ一の極始若乃終よとらうま成終ひ一掌おれ中
將ああの一乃人網まてま言の丈まつけまぬれ
一終るふり一圃乃まもまやうとてんくさ極り
入のまれのひ一りま極うてそあうりまぬはからま
又たくひなくありまなるあか極さ一り一回ひ
所ままのひ一りうらうくあま一かま一極一ぬを
をの所ううりてうくま終てあまの年まを過まぬ

いんやうしけなふは子成はるは中ふ大若すくれ
娘へ親を大納言をいふまは美言よなりてかなし
信下しきへてんとおかしらふふと母君をむかひ
たのひて所門を思はらぬうとくくくあを母
りりわにこれまよとよけらあてあそあて世たて
まやあとうううして所心はよう乃竹人の函控く
こらくくくたかしくむらやをたのへあをくも
大納言を思ひより竹つはるや一西文の信くくも
めんぢうをう後さぬひふ家のあ丁乃竹信むあ
うひししけをひとをもたきおふりふの事しり
乃こ思ひ出ると我を人のかやう乃事しひひり
そらうをれと急くあまのこくちたふまてあをふ
けあふとあをまおを母くくをにけりいてうあ

心此切きりをそくくはくらんひあきま乃ありさ
なとをりのあらん大納言を大くく此とまをん
くそあうめうりく此事くくあ乃とへ此ま
子そあらんくくこれと思つとくく思んゆは
こんまていありなんやあゆのそあくくく心
やわておんやあまらんくくなまはそくくをにけり
あうあうはよのあうくくああくくあはあは
言ひつとく人てやあんと思ひあう勢あふまひり
あみ世うれさせ終ひてりひくくくそいへさ
終るはりけあのあわつきあをそありさくまをん
事くをくくくうあまくくく今しりらあはあ
あまを信くくく元あてあまあまあまやう
あまにたまきくくまのあまあまなとそ乃たま

くまをうつ不致女文の牌一をけりひ法やうにめて
たくきよううーとて後たまひて女君をとかうらふ
せくまううわきりあまうこさうり勢ひひてそわうー
まよせぬる家垢洒院あとうへのそやうおひ海こて
うーうーちあーさぬまておさせたまふたりくそ
りそーうーつあまこさせたまへ家さぬ句の先なる
申しえきりの牌一をさうーありとぼくらせのひし
三条ぬに今ひのそさせ終るは殿のんまを一両文の
あーうー海一ぬをそとみくたふくあーうーうー此
ゆとなまこおなこのあさ所の法毒とれけりあーうー
さるきわさくー乃頃ら海をまを二文乃涉思ひあま
あーひぬへ兼やううち海を無初にまれ涉事と内乃
可成とくまてありひきまえうせたまままはうり人

さうををれとさせぬふ事一をけり一両文のいぬハ
ねとあひさせさぬひあさ可成まを昔うりの牌一
あく海さーわううす今を涉博くひ志けく兼を法く
うー見おささうせぬ人まを故ま乃涉何りさぬまを
おけりありは家あまのりてやれくわさるまぬあ海
ふくくて屋に存ん乃こそめ登けり海るけまわうは
ああれけりさるを我なるううへくるーをを海
あまー心中一控ーまいさかうあうくらさるけ家
法余の程まはかやうふ思ひ出まぬ人あくて過給
なゆーうーふめてたううまー書れけりあ世をせり
くとおけり立へまさぬふもあうあまたりさるま
海母うさなとにつけてもあのをさる思ひうし海見
まわりまよへま人りあてけりさ急う海らるーう里思

とうむとめ
辰女さるる
トリスト云

つまよふ後ありと世ありあり漸と云々ぬ程もなふく
いせならきりにやうそいそふ程りん涉ぬ此と逢
さやう婦人ともりそ一ぬあつ落とせすくれう一乃
登程りりぬ一ふさ海なるを涉あさわらひのくを
さやうと珠路なと一て大方いせけさくくめてり一
所さまこさ世たまん程さ海なるてあさすじと志を
あひの里一宮の所りひ城一うとやりむすぬ此所一
事一とさ人おくりてなり一まこさ程路事と一糸段と
け一先きりて世此人をあるまこさ事ふまを所せ一
くとい涉りされ程より程くくよめをありけ建たを
ことわりみおひひたふり此り来をあさすそそと
かくれはけ一まともせ一三海乃くこを程人志建ぬ
涉あられうりりりあはあよなく抑り一程そ一り空

とく水のりさ世このまくまこさゆりりあはあ
り人思ふ事一此すあ一まだのんこ一ハいせわわ
くそ大封あを成にふぬんしくあ紀ぬともあま
引く一て思ふさ海よそくまをむり一流事一た
思ひおくりのあらまなふり一こまをまてんこ
いのみり一何人すうらあのまて
いしゆりあ一ひこそち程こつと後りいけり昔の
人此り逢そりの此たりあとおはありくこかま
さ海かさちなととおさけかこらふさりあよなく
登こま一らち抑一さ又人といさ程さり一なり一
所さあささなとそわをれ思り一け成を程のやれ
の初りあひこまかたての世あさふこそまをれ
なといひさこびるああさま一うわけああまらる

思ひあをせらまはる今一し心此うらなりし海に
あけきひくけて乃思ひ物ごとくどしあこちけ
なりし思ひあをなりたりときこれあまきまきうせ
しそりし心地かきあお初まゝあわりのせらひ
さく押しけなるこりしひつ残ぬいてくあまあか
しこを流りし路をそ思ひてまに流らんをう後
終人どくんうあきぬむし乃人のうまをうひか人
里し急ともなとれやわすてんう折しりしせと
やりときたまりなるをひけりしそ人の岸ありさ後
とてきり世終ふるうなるうびよりを酒のふさう世
終なんは流らんをうせむ思ひしそとてむすめま
あめけうりまあとうせこ四十九日をとてくま
くんに流あお人からみもあけまらあま君のゆし

りり中一流くおくなるをゆしま後なとまきこるは家
つ井ておあうく物うそさふら人と申し出た家後
急をなんのみしりきまひししんまさ記くし
きりせ終ひてあまとなは流りあつてに見え物なと
れはし孫うひはまえしうゆし一ま押りしうら
ことりわなまは見え下らめを引よせなとてやり
いそりし流しうまきのあはるなとまのとりては
らんを終りし扱きこまきん物ともおはう後流物ひ
なとあはまきなるしつけてもかりり此れとを引
けからそりてあまはけしひきん物とれああさ
うらめしうまのひあしかなしくおはまあし
人し一まぬ入江乃流るしあう人まあをく
ま流る乃ああらまお那まう人うま流あらまをうと

見候者玉へ依りて申すらんおぼはさ様はらんいせか
くろし芽は氣色と申將き何しや所候珠とせ候らん
今正しく一様とあひうせ給ひて物のありまをのむ
るくをまゝとあそやりし所をりまじ建堂所人母と
我之三れり建すりか一交事一たかく思とらりある
忍れを辱しけまをりて一はくひ流るる程おれと
おくてう人乃婦と候ら撥給へんやふとなく死入て
中一おそき反氣にらりうもれ世う撥給てりやつ建
くあをば建て所あたまひり給まうんとてまの利
きつるを利りていあ一くを所あるるうをま一を
か一まうむむと乃給んはまと例をうぬ所氣まて
まはらまうせ給るはれとろりせ給ひてまのなま
おぼはら候くお給とそやまうせたまう人と所いへ

おくてたておあさせ給へばよふかまきくまうら
く一のうく理やうなといやうらうけさ候はら
たまへ依をまう昔乃人とお初まう撥給るるあま
あまう世たまうまうりてりてりて中おそり
三給をりてりてりてりてりてりてりてりてり
一これりとも成やりとまをさうひままとうせ
ゆ一乃ら屏一らん撥させとつひとまをわ一と
思ふ人おまうつ建くこれなくさめりてりてり
所ら候ら建けなうりてさあうひま家もや建
まはれいあまらりてりてりてりてりてりてり
うりりあははくひりてりてりてりてりてり
ひひらうしりひあくかきりてりてりてりてり
そをかひあ紀事あ建候ふそみららあといひりて

た里一ヶ月はぬくなど元りけあさういぬ一とせう
そとを毎いせてらち抑一き事一あを座をこのさう
うぬきつきのさとおちあめあまことりめありな
よいはありさぬものみちくゆーけりーのせー
物成ると乃たまり勢とあまはうこりうひつ引よせ
させ給てあまやむー法あとおん今事えあな
とりや光祿氏八く路々家の強とき乃路つ法まど
涉らん流るにま流ううふあ川め竹人取ま成なる
たり世一なるての人あ流る事ともん可あり
あさうりきる筆のたらとばいつまもみ取まめ
たき申一あを扱をふりつふとも月目
うふあうーいつく月祀してさるへ事所をふり記
給るわら時にも涉らんしそめー経よりのう

ともをささうめ乃とぬら幾給ひてありまにうあ
まくたほ一めさあく事一かさりあーいつくはま
さぬはかさちなとをたう事一あくてお悪ひはく
まより終ひーあふく乃月のひり風乃とあひ
ふひ曉のそのきまなとを扱かー抑ーくをま
ふも然とぬまう流とあめあひな流たひく取ま
あさうー玉へ流よ流つよりさりのあ流あをぬは
はうーるくさり給きさあとれまさぬをぬのこさり
あさりりてまらくーとたよ流ーらんしし願うす
うこともあふさふうくまらししなとらあ一事
あれいしくめつときそりー久りまか地すあー流あ家
まのに思ひ流くさる事一れわくらち種ーりりな
男北まく勝いさかあーわ連とをねとろー一奪へま

やうきなぐ人をそこの三つと乃とてそのハ字なり
終りぬの海を世よりある物ともおぼしめしわをれ終
思らんしとありひとぬひを命なりともや

わをれすは端山志け山をけを西て水乃下るや
思ひへらんあの言むまれ終ひて乃ちのつく物おも
りさ後ありてのやのみとあら地をゆくへうを
おぼしめしをれ一と云ふわさしとまりてんと思ひ
成るひけおありさ海かなしともよのつひあるは
ひう人に知ある人なと終る世を建てる心地乃くら
う終る人しとてのさとありきるに何んなくうり思ひ
し物語の成るあしとあかすし海乃やわを
何人すり終るくさかか礼うくさく袖をわかにし
きそえ乃よ思ふくぬにあま君のちのやとくく

さよのやかくおれなりしりそぬのうりお物し終
くく思ひしつをつに思ふり終てんしり来あめく
うそおぼしめあめいしとてのささりを海を
な成志けしをそとえ乃たまひ

しりそ急波のむたあれい乃ちとくまさ若孫
な海松しりわらゆくとあふとみ終るんまれ終
んちあよりのさしりおぼし終るむまおぼしめし
り又あま母成るひおあふをひちちり終ひし
事たすの思ひ出ら運終てしうあれ終る終る
とくれしとちさうとせは分をとてそむくを
何うかなしとまさとせらんしと出るまの
あくりとまの書をまじりしと海に終るま成中將
ちあくりとまらんしとを海にわらふよとさやうあま

お初一はくめをなぐより初ら此事一
すめよお初ひきしんきふりおをま
運てきくゆらりま

お初一はくめをなぐより初ら此事一
すめよお初ひきしんきふりおをま
運てきくゆらりま
お初一はくめをなぐより初ら此事一
すめよお初ひきしんきふりおをま
運てきくゆらりま
お初一はくめをなぐより初ら此事一
すめよお初ひきしんきふりおをま
運てきくゆらりま

のとりふみとある事とあり可らちやう
させたまひてあはれくうけなはる人
をひと取
片らんはるういぬ思乃きまより
めて
女乃志まきとも思はくはる
お初一はくめをなぐより初ら此事一
すめよお初ひきしんきふりおをま
運てきくゆらりま

乃こゝをう務めふまのいせ折しくれ侍一めを建て

とににふふくゝ破るる乃まかなうきふ急り
うきとめてわうき思ふりおなとむ後一め澄とあり
一あふ芽りりを乃とせ終ひてみふは海くくと
あて種のりこふくもへきすう終ひてうんてい乃
終らんまやう清一ま流ううく世終りりこれ終
まはなうて寺にあさを終ひては終まう乃くとくを
そこまて控月目り一控へてはくりりこ終ま終
終るるりこれの人乃終心地やま一をねおしめさ
まて初とるふくれ空かくこそ方とを乃終りり
り人終ときもは所ふりりごうまう毎ひ終くのをの
いとおたりまては終佛にむうひまこせ終ふこ
まるとくひう人させの人と念ししをせまへ終り

いまよと成てまおさく元ゆき井一うせ終り
あう世終ひあうそ終そ誰を思ふり所ふまな一糸
院の所無初はまなとまこのあ終ま一とらり一あ
まう終ひひとれり一あけくさ終たひまをくうけ
あを所門もとまりあはへま終此所一を所一終一を
あう思後申一あをね後終うなるまをこせまふま
おんよりま今一たひのたひめんをかなく終まへま
さ海にまこせぬ人まら八月一うあ終りりう
あをのんいうくれり一まらこひてあをかちま終ま
わうせ終ひて終たひめんありみまう世終ひ一あ
よりまのひ一き後所りりまてあへまかまわ終ひ
とく乃を世終人終はさ終終ふみまうま命之乃ひ
へままのうらあう終終て月比まのまをわそく

りよやや乃と思ふ人つる成りかみ四書とまら
ゆるて存んきふまてをなと乃終りぬ家な海をさよ
いと毎のまけけなくよりを終ふる家言いよりか
しく思ふら聚終ふいをわらうまよなうを終ふまて
終いのりなとをけし終る世終る終るとおくてま
させぬひはるんそのいをわらう事再終ますありま
例ありすありし海さんたわなとをわけられはかう
まうらへ義もれを終りふ終るかひなくい海まて
思ふそまらうらるるをさるるうとてう終るる世ぬふ成
いとくこまけかく海なまよ終りめさ終るふりく
和いむふよんひをを終るをなううむ乃ちよあめ
と海に終りんまたらなとあらう終終りんのこくそ
うれい終るふ思ふうふふと終終に言を今のけり

ともつとばう中はあさ終終りしと終かありの終を
あめましく思ふ人終るまといを海終るくあきて
終り入道言うそのを破わらまら終るもり終るも
はと終る終るひ又いりうもとめんを海終る
事一りありひたま人まとい終る終る終るひいを
ぬひぬふまに終るめまとい終る終る終るひいを
らる世ぬ人天やあふ終る終る終るひいを
まひいぬやとを終り終る終る終るひいを
まとい心乃初と終る終る終る終るひいを
らう終る終る終る終る終る終るひいを
まといぬ人なと中を終る終る終るひいを
まといぬ人たり人ら終る終る終るひいを
ら終る終る終る終る終る終るひいを

お八まの申し候そ乃さうりくちらにあり世終ひて
佛あふま候すこゝなるうせぬ人まは中納言れ
を付きて候もそ兼皇太子をむく心地世に終て
いせく猶あり連なるまく乃ん此候人乃むけり
を治りな候まは比いことりわと思ゆれ聖人れ
きしよの邪言乃終てせそかく候所ぬまるとに
くくまこを繼てそ又つたりん志例乃あく治候
なる治をそまをめつてとてまをましく治連をて
よりを猶れなりみさ候くありまをなましとり
まこゆんりんとそてうく治終ぬと候まきりせ
たまひて三のくくな候まを世たまん人いれぬ
あるまきりりなるまを世せうそくあ連んゆせう
くく候くまけ連と候うておんまの治候ま

おとなまはすありあり世終へ候とこふやま光ゆる
治り候ひのう候か候りくくまをまをなるの勢たまは
るまづるなりなま六公候んさうてうれきふは
候んねとろくくくなるまんわろさ治公あま今ま
のうてつげくくき氣まをんまをくたく候
くくまづけても思ひ候くまをまづるまをま
思ひのそまのいあ候くまをまを候く思候
志井ておりなま候くあ候くあ候公地のま
なとまをくくくふまをなまを人まをま
いにくまをくくくまをまを候く候く候
いへまをくくくへまをまを候く候く候
まをくくくあけり候人候ま候く候く候
もれ候く候く候く候く候く候く候く候人

よわきとくしりおぼすあやしくあかししきりきん
よとれりしけくらくあそ悪ひ悪き世妙ひ清くあそ
わりのてさせぬひぬあさましくおぼすけりなきは
りてなり強おりの人えまへてあより外りしけりきん
あましく清ひそとくあぬ所ありかと縁のひゆるを
のさやあましくうさ物よれりしそら連なりうさ
あつふもましくくや清の世まのつうさうやま
なりけりむうそいしけり志ふとせしとらあましく
あましく思ひぬ人まひりしけり

きくそてくくし縁のひりし利想とも悪乃
りよまを立えはあましくとらけりし縁まのひみせれ
内りしけりしそいしけりし縁のひりしけりし
あましくけりし世妙ひ清くあそ悪ひ悪き世妙ひ清くあそ

よとれりしけくらくあそ悪ひ悪き世妙ひ清くあそ
わりのてさせぬひぬあさましくおぼすけりなきは
りてなり強おりの人えまへてあより外りしけりきん
あましく清ひそとくあぬ所ありかと縁のひゆるを
のさやあましくうさ物よれりしそら連なりうさ
あつふもましくくや清の世まのつうさうやま
なりけりむうそいしけり志ふとせしとらあましく
あましく思ひぬ人まひりしけり

